



心の教室

春日井市立大手小学校心の教室 神丸 栄

 こころ きょうしつ
 心の教室 だよ

きのう は 凍えるほど 寒かったと思えば、今日はポカポカと 暖かい…行ったり 来たり 気候
 ですが、春がそこまで来ているという季節のたよりなんです。

みなさんはもうすぐ 卒業・進級 です。この1年はどんな1年でしたか？

わたしは、皆さんと一緒に 笑ったり 怒ったり 思い出に残る1年でした。大手小学校の 皆さ
 んがますます 好きになりました。

今年度は、もう少しとなりました。より 楽しくより 大切に 過ごしましょう。

もうすぐ 春 です。

3月の相談日

3日(火)、5日(木)、9日(月)、12日(木)、16日(月)、18日(木)、23日(月)

時間は10:00～14:00です。



保護者の皆さまへ …子どもの「10歳の壁」とは…

「10歳までに決まる頭のいい子」「運動神経は10歳までに」「10歳でつまづかないために」などという雑誌や本が出ています。なぜ10歳なのでしょう？10歳でなにが変わるのでしょうか？

発達心理学では10歳前後でいろいろな成長の変化があると言われています。その成長の一つに「他者の視点の獲得」があります。相手の立場に立ち、相手の気持ちを想像して互いの立場を調整し折り合いをつけることができるようになるということです。

10歳前後から子どもたちは、自分の思いと友達の思いの違いに気づき解決していこうと考えるようになります。ですから、7・8歳では「友達の立場に立って考える」ことはできません。「相手のきもちを考えなさい。」は難しいことなのです。「他者の視点」を獲得した子どもたちは、相手の気持ちを想像しながら自分の思いも通したいという今までとは違う大きな葛藤を抱えることになります。そんな子どもたちの精神的な成長に伴い、心の教室での相談内容も変化していきます。

低学年の相談内容の多くは、「○○ちゃんにたたかれた。どうしたらいいですか？」「算数の計算が早くできません。どうしたらいいですか？」というかわいらしいもの(本人は真剣)がほとんどです。

中学年になると「○○ちゃんと遊びたくないのに誘われる。断りたいけど、かわいそうだから言えない。」と相手の気持ちが想像できるようになり葛藤が生じますが、まだ自己中心的です。

高学年になると「○○さんと○○さんがコソコソ話しをしている。私の悪口のような。私を仲間はずれにしたいのかも…。」など少し複雑な複数の友達同士のトラブルの相談や「学校での私は本当の私ではない。」「自分を変えたい。」など自分の内面に目を向け始めた思春期の悩みなどが増えてきます。

「壁」は見かたを変えると「飛躍」できるジャンピングポイントでもあります。この時期の子供達の発達を理解してやり、はしごのかけ方さえ工夫してやれば、きちんと思春期を迎え大人への自立の準備をスタートさせることができるのです。心の教室ではできるだけそんな子どもたちの成長に添った問題解決の仕方を一緒に考えていく心がけています。